

令和 5 年度 特別の教育課程に関わる自己評価

1. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

1・2 年生において、領域「せかい」を予定通り実施した。目標は、多様なものの見方につながる身近な他者との出会いを大切にしながら英語に親しむことであった。また、内容は、広く世界のあり様に子ども達が触れ合うことを重視した。カリキュラムの特徴として、広く「せかい」のあり様に子ども達が英語を通して触れ合う活動を重視したことから英語に親しむ姿が多くの子供達に見られた。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校が所属する神戸大学では、「開放的で国際性に富む固有の文化の下、『真摯・自由・協同』の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する『知』を創造すると共に、人間性豊かな指導的人材を育成」することを全学の使命と定義しており、教育憲章においては、全学の教育の目標として、「(1) 人間性の教育」「(2) 創造性の教育」「(3) 国際性の教育」「(4) 専門性の教育」の 4 点を明示している。このうち、英語教育と関係の深い(3)については、「多様な価値観を尊重し、異文化に対する深い理解力を有し、コミュニケーション能力に優れた人間の育成」がめざされている。

こうした全学の理念に基づき、本校においては、『グローバルキャリア人』としての基本的な資質の育成」をミッションとしている。なお、「グローバルキャリア人」とは、「国際的視野を持ち、未来を切り拓く資質を身に付けた人材」と定義される。また、本校は、具体的な「めざす子どもの姿」を、「自ら進んで生活を築いていく子ども」「国際的な視野と広い心を持ち、互いを尊重し合う子ども」「豊かな感性と探究的な思考力を働かせて、文化を創造していく子ども」としている。

以上で概見した大学及び本校の理念をふまえ、現行指導要領の 3・4 年生で行う外国語活動及び 5・6 年生で行う教科としての英語に加え、1・2 年生から領域「せかい」を実施することで、6 年間を通した学びを実践することができた。そして神戸大学の附属校園である本校の児童に求めるグローバルキャリア人としての基本的な資質の育成に一定の効果があったと考えている。

2. 課題の改善のための取組の方向性

学校関係者評価では、現行指導要領の 3・4 年生で行う外国語活動及び 5・6 年生で行う教科としての英語に加え、1・2 年生から領域「せかい」を実施することで、6 年間を通した学びを系統的に繋いでいこうとする取組に、肯定的な評価をいただいた。今後は、一層のカリキュラムの充実や教材開発を行い、学校としてカリキュラムや教材を蓄積していく。とりわけ、実際に海外の子供と交流する機会を設定したい。